

令和7年度 自己評価結果報告書

学校名

成田市立久住中学校

1 学校教育目標

一人一人の学びを大切にし 生きる力を育成する
【学校・家庭・地域社会との連携および協働を通して】

2 本年度の重点化された具体的な目標

・タブレット端末等のICT機器を効果的に活用し、体験的活動を積極的に取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現に努める。
・学校運営協議会や学校支援推進委員会、地域の各種団体と連携し、地域社会の人材や教育施設を活用した教育を推進する。
・学校から地域社会への情報の発信に努め、地域に根ざした学校づくりに努める。
・生徒指導の機能を重視した指導・支援に努め、自己肯定感の醸成を図る。

3 自己評価結果

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
教育課程 学習指導	先生の授業は、ていねいで分かりやすい。	96.5%の生徒が肯定的評価をしている。	A	指導主事による授業研修や生徒が主体的に活動する授業づくりに関する研修を行う。普段の授業において、学習の仕方について助言する。
	子どもは家庭学習の習慣が身に付いている。	77.1%の保護者が肯定的評価をしている。	B	
生徒指導	先生方は、悩んだり困ったりした時、相談にのったり助けてくれる。	91.3%の生徒が肯定的評価をしている。	A	教育相談を充実させ、生徒に関する情報を職員が共有し、指導する体制を整える。生徒主体の活動を増やし、達成感や自己肯定感を高める。
	学校はいじめや差別のない学校づくりに取り組んでいる。	80.8%の保護者が肯定的評価をしている。	B	
家庭地域との連携	学校は子どもの様子を学年・学級通信、ホームページや保護者会等で伝えている。	89.3%の保護者が肯定的評価をしている。	A	学校通信や学年通信を定期的にマチコミで配信し、確実に保護者へ伝わるようにする。授業参観等で学校の様子を公開する。
	学校は家庭や地域との連携を適切に行っている。	88.5%の保護者が肯定的評価をしている。	A	
危機管理	地震や火災が起こった場合どうしたらよいかわ知らされている。	97.0%の生徒が肯定的評価をしている。	A	生徒の安心安全を最優先し、保護者・地域との連携を図る。教職員に対し、危機管理マニュアルの周知を徹底し、危機管理意識の向上を図る。
	学校の校舎内外はよく整備されている。	96.8%の保護者が肯定的評価をしている。	A	
キャリア教育	将来の進路や生き方について学習する機会がある。	80.0%の生徒が肯定的評価をしている。	B	将来の生き方や夢の実現に粘り強く取り組む生徒の育成に力を入れる。体験的学習の重視や地域人材の活用を進める。
	学校は、将来の生き方や考える力を育てようとしている。	83.4%の保護者が肯定的評価をしている。	B	
研修	教科の努力目標や仮説に沿った取組ができています。	100%の職員が肯定的評価をしている。	A	各教科・領域の研究主題を意識した授業が展開できるよう、定期的に教科ごとに研修を進める。学校の課題に応じた研修を計画的に実施する。
	職員研修が計画的・組織的に運営されている。	90.0%の職員が肯定的評価をしている。	A	

4 自己評価の結果の分析

学習指導について、「先生の授業は、ていねいで分かりやすい」と回答した生徒の割合が96.5%となり、昨年度の94.2%よりさらに向上しています。また、昨年度の課題であった「子どもは家庭学習の習慣が身に付いている」と回答した保護者の割合も、67.2%から77.1%へと改善が見られました。今後も引き続き、指導主事による授業研修等を通じ、生徒が主体的に活動する授業づくりを進めていく必要があります。

生徒指導については、「悩んだり困ったりした時、相談にのったり助けてくれる」という生徒の肯定的評価が91.3%、「いじめや差別のない学校づくりに取り組んでいる」という保護者の評価が80.8%となりました。依然として高い水準を維持しているものの、昨年度(生徒93.1%、保護者81.6%)と比較するとわずかに低下しているため、引き続き教育相談を充実させ、職員間で生徒に関する情報を共有して指導する体制を整えることが求められます。

家庭・地域との連携については、本年度の重点目標である「学校から地域社会への情報の発信に努め、地域に根ざした学校づくりに努める」という方針のもと、「学校は子どもの様子を伝えている」という保護者の評価が86.4%から89.3%へと向上しました。

キャリア教育については、「将来の進路や生き方について学習する機会がある」と答えた生徒が80.0%と昨年度(84.7%)からやや低下したものの、「将来の生き方や考える力を育てようとしている」という保護者の評価は83.4%と昨年度(81.6%)から着実に向上しています。今後は体験的学習の重視や地域人材の活用をさらに進め、将来の生き方や夢の実現に粘り強く取り組む生徒の育成に力を入れる必要があります。

全体的な課題として、本年度も重点目標に掲げている「自己肯定感の醸成」に向けて、引き続き生徒主体の活動を増やし、達成感や自己肯定感を高めるための取組を推進していきたいと考えます。

令和7年度 学校関係者評価結果報告書

学校名

成田市立久住中学校

1 学校教育目標

一人一人の学びを大切にし 生きる力を育成する
【学校・家庭・地域社会との連携および協働を通して】

学校関係者評価委員

2 本年度の重点化された具体的な目標

・タブレット端末等のICT機器を効果的に活用し、体験的活動を積極的に取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現に努める。
・学校運営協議会や学校支援推進委員会、地域の各種団体と連携し、地域社会の人材や教育施設を活用した教育を推進する。
・学校から地域社会への情報の発信に努め、地域に根ざした学校づくりに努める。
・生徒指導の機能を重視した指導・支援に努め、自己肯定感の醸成を図る。

学校運営協議会委員

3 自己評価結果に対する学校関係者の評価・意見等

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策	学校関係者評価	
					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
教育課程 学習指導	先生の授業は、ていねいで分かりやすい。	96.5%の生徒が肯定的評価をしている。	A	指導主事による授業研修や生徒が主体的に活動する授業づくりに関する研修を行う。普段の授業において、学習の仕方について助言する。	A	A
	子どもは家庭学習の習慣が身に付いている。	77.1%の保護者が肯定的評価をしている。	B			
学校関係者 による意見等	・家庭学習の習慣に関しては、保護者の方針が大きく影響を受ける。取り組む前の声かけも大切だが、取り組んだ結果のフォローも保護者・先生共に生徒とコミュニケーションを推進してほしい。 ・自主学習ノートをお互いに見る機会があると生徒全体に効果があると思う。 ・ICT教育の更なる充実を期待する。 ・高校受験の仕組みを1年生の時から知る必要がある。 ・教科書がいつも自宅の自分の手元に置いて活用できるようにしていく方法も学力向上につながると思う。					
生徒指導	先生方は、悩んだり困ったりした時、相談にのったり助けてくれる。	91.3%の生徒が肯定的評価をしている。	A	教育相談を充実させ、生徒に関する情報を職員が共有し、指導する体制を整える。生徒主体の活動を増やし、達成感や自己肯定感を高める。	A	A
	学校はいじめや差別のない学校づくりに取り組んでいる。	80.8%の保護者が肯定的評価をしている。	B			
学校関係者 による意見等	・保護者の評価が低く感じる。もう少し深掘りし調査してもよいかもしれない。 ・今後も生徒が安心して自分らしく学校生活を送ることができるような取組が継続されることを願っている。 ・自分ログ(きずなノート)の取組がとてもいいと思う。文章に書くという行為で自分の気持ちを整理できる。 ・情報共有は重要ですが、必要最小限の共有、目的の明確化、記録の管理体制を徹底しないと信頼関係を損なう可能性があると思うので気をつけてほしい。					
家庭地域との 連携	学校は子どもの様子を学年・学級通信、ホームページや保護者会等で伝えている。	89.3%の保護者が肯定的評価をしている。	A	学校通信や学年通信を定期的にマチコミで配信し、確実に保護者へ伝わるようにする。授業参観等で学校の様子を公開する。	A	A
	学校は家庭や地域との連携を適切に行っている。	88.5%の保護者が肯定的評価をしている。	A			
学校関係者 による意見等	・学校便りが多いことは保護者の学校への安心感へもつながっている面もあり、無理のない範囲で続けてほしい。 ・保護者アンケートでは肯定比率が下がっている項目も見られ、生徒と保護者との受け止め方の違いに家庭や地域との連携の難しさを感じた。					

4 次期の重点目標と改善のための方策

【次期の重点目標】
 ・ICT教育のさらなる充実と、自主学習を認め合う環境づくりを通して、家庭学習の習慣化と学力向上を図る。
 ・「自分ログ(きずなノート)」等を活用して生徒の自己肯定感を高めるとともに、保護者のニーズや不安を的確に把握し、安心・安全な学校づくりを推進する。
 ・無理のない範囲での継続的な情報発信と、目的を明確にした適切な情報管理を行い、家庭・地域との信頼関係をさらに深める。
 【改善のための方策】
 ・自主学習ノートを生徒同士で相互に閲覧する機会を設け、学習意欲の向上を図る。また、家庭学習の取り組み結果について、教員と保護者が生徒と積極的にコミュニケーションを図れるよう働きかける。
 ・1年生の段階から高校受験の仕組み等について周知する機会を設け、生徒の目的意識を育てるとともに、保護者の不安解消に努める。
 ・文章を書くことで気持ちを整理できる「自分ログ(きずなノート)」の取り組みを継続し、生徒が安心して自己表現できる環境を整える。
 ・保護者アンケートで評価が伸び悩んでいる項目(いじめ防止の取り組み等)について、さらに深掘りした調査や意見聴取を行い、生徒と保護者の認識のズレを解消する。
 ・教職員間での生徒情報の共有においては、目的を明確にし、必要最小限の範囲で記録の管理体制を徹底し、生徒・保護者との信頼関係を損なわないよう留意する。
 ・学校便り等の定期的な発信は保護者の安心感につながっているため、教職員の負担にも配慮しつつ、無理のない範囲で継続していく。